

文化財学習会

# ふるさと探訪

テーマ 庵治町の社寺を巡る

講師 渡辺 寧

(高松市文化財保護協会理事)

平成28年10月23日(日)

共催 高松市歴史民俗協会  
高松市文化財保護協会  
高松市教育委員会

## 1 石と魚の町・庵治

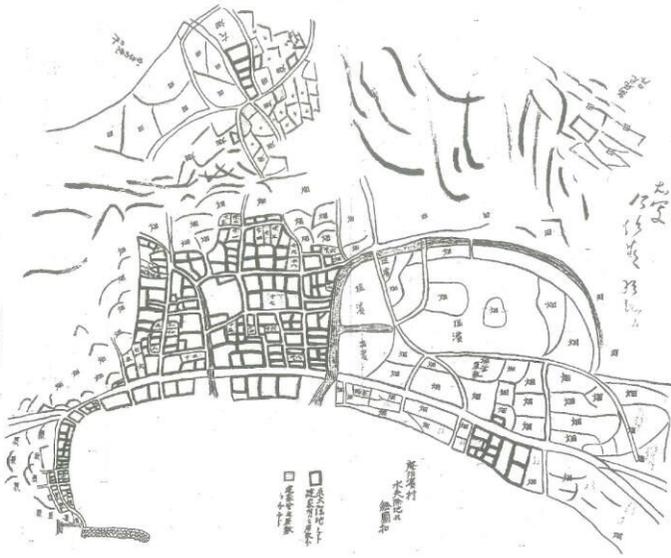
庵治町は、四国本土最北端に位置し、三方をおだやかな瀬戸内海に囲まれている。南は霊峰、五剣山（八栗山）の山並みを挟み、牟礼町と接しており、町域は東西三・七キロ、南北四・三キロで、総面積十五・八三平方キロメートルに及び庵治半島の北半分を占める。

庵治町は古くから石と魚の町として栄え、石材業と漁業は、今なお町を支える二大基幹産業である。五剣山の麓から採取される庵治石は、高品質で希少価値が高く、世界一高価な花崗岩と評価されており、国内はもとより、海外においてもその名を知られている。また、源平合戦ゆかりの屋島を間近に臨み、平家の軍船の集結場「船かくし」など、町内には多くの史跡が残っており、最近では、映画「世界の中心で、愛をさけぶ」のロケ地として有名で、県内外から多くの人々が訪れている。

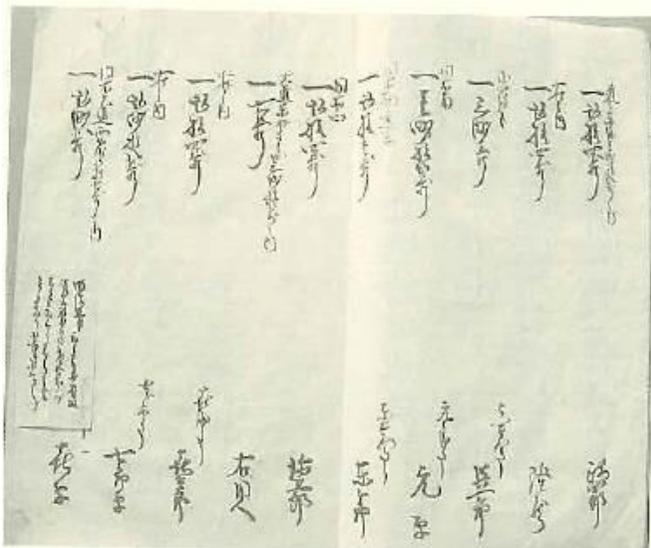
庵治では、秀吉の朝鮮出兵の功績によって多くのくだされ屋敷や免税地があったと古くから言われており、「庵治濱村水夫除地よけち絵図」（渡辺氏蔵）、「庵治浦水夫被下屋敷くだされ順道帳」（木村家文書）には、庵治の水夫が屋敷をもらい、屋敷が除地、つまり免税になっっていることが示されている。そのほか庵治の水夫は秀吉の九州・四国出兵に参加するなどの協力により免税などが受けられたのではないかと考えられている。

「庵治濱村水夫除地絵図」によると、王の下、谷、浜、才田部落の全部と、鎌野で十一戸、高尻で一戸の合計二百三屋敷が除地（免税）となっており、「庵治浦水夫被下屋敷順道帳」では「権現がけ下」から始まり、高尻中の谷池の南六畝歩の合計三町七反六畝、二百五十三屋敷、持主百十六人のものが「くだされ屋敷」即ち「免税屋敷」となっている。絵図と順道帳の内容はほとんど一致している。

庵治濱村水夫除地絵図（複製）



庵治濱村水夫除地絵図



庵治浦水夫被下屋敷順道帳

## 2 才田岩陰獅子舞さいたいいわかげ（市指定無形民俗文化財）

平成十八年一月四日指定。庵治の才田獅子さいたは「岩陰獅子」と言い、岩の陰から躍り出て舞う獅子を表し、上下左右の激しい動きを伴った元気で勇ましい舞である。庵治の船祭りでは、漁船三隻を横に並べた舞台上で岩陰獅子が舞う。

カンカラ、カンカラと言うかん高い太鼓の音で「後使い」が両手を高く上げて入場したり、踊ったりするのが特徴で、これは、天照大神の天の岩戸に入られるのを、神々の神樂をもって引き出す態を表すという、全国的に類例が見あたらぬ古風な獅子舞である。

### 【才田さいたの獅子頭（市指定有形民俗文化財）】

平成十六年九月一日指定。才田岩陰獅子舞に現在も使われている。文政九年（一八二六）ころ、彫刻師の額田喜左衛門が作った木彫りの獅子頭であり、他自治会の張子の獅子頭とは重さが違い、力の弱い青年では使えない。讃岐の毛獅子の頭では古のものとされている。江戸時代、額田喜左衛門は松平高松藩の大番屋敷にいて、丸門の主人として御殿を守り、瀬戸内海を航行する御用のお船を見張る役目をしていたといわれる。



才田の獅子頭

### 3 西天神社

(所在地) 湯谷地区(宇新開)

(祭神) 菅原道真

(建物) 本殿・幣殿・拝殿など

(由来) 桜八幡神社の境外摂社で、『三代物語』に平安初期の仁和二年(八八六)、菅



天満神社 (西天神社)

原道真が讃岐国の赴任地に船で来たとき、庵治浦の海岸で風雨に会い、上陸したことが記されている。嵐のため三日ほど足止めとなった後、庵治の海岸に上陸した道真は、丘に登り、石に腰かけて景色を眺めたと言われている。村人がその旧蹟に祠を建て、道真を祀ったのが、天満神社(西天神社)の始まりといわれ、現在も、社殿の後方には道真が腰を下ろしたとされる「お腰石」が残っている。このため、西天神社は「お腰天神」とも呼ばれる。

#### 4 岡田丹後守の墓

湯谷の開谷に、一際高い六角形の石幢型の墓がある。墓石裏面の上に「近江国住人四位上岡田丹後守」、その下に「岡田六左衛門正近 藤原朝臣正清 岡田挺右衛門正広」などとあり、一門合同の墓石となっている。墓石には、天和元年（一六八一）、元禄五申年（一六九二）、宝永四亥年（一七〇七）、享保九年（一七二四）などの年号が刻まれている。

江戸時代、高松藩主・松平頼重が庵治の御殿山に別荘を建てられた。殿様が御殿へ来られていた頃、乗馬で新開の東南の隅の平見の一里松の前に差し掛かると、馬が立ち止まって動かなくなった。よく調べてみると、その東方に「四位上岡田丹後守」の墓があることが分かり、それからは籠で通るようになったという。おそらく殿様よりも位が上だったのだろう。だがそれ以降は殿様に遠慮して、墓石を山一つ東の現在の場所に移したと言われている。

#### 5 庵礼西国三十三観音

庵礼西国三十三観音とは、牟礼の八栗山（五剣山）の山ろくを回り、庵治の浦や牟礼の谷を巡り、三十三か所の札所、三十三観音をお参りするお遍路の道である。

表1 庵礼西国三十三観音

番号	場所／種類
第一番	八栗寺／聖観音立像
第二番	落合／石仏
第三番	落合／石仏
第四番	浜東／石仏
第五番	洲崎寺／聖観世音菩薩
第六番	宮北・砂子／石仏
第七番	久通り／石仏
第八番	丸山／石仏
第九番	城岬の岡／石仏
第十番	湯谷／聖観世音菩薩
第十一番	兵庫畑・薬師庵／石仏
第十二番	宮東・令中堂／石仏
第十三番	願成寺／石仏
第十四番	大仙山頂上／石仏
第十五番	王の下・大師寺／十一面観世音菩薩
番外	王の下・皇子ん鼻／魚籃観音石像
第十六番	江の浜・越浦・不動堂／石仏
第十七番	竹居観音洞奥／馬頭観世音菩薩
第十八番	鎌野・大石庵前の小堂／石仏
第十九番	篠尾・池の端の観音堂／石仏
第二十番	鞍谷・浜墓地内／石仏
第二十一番	高尻／石仏
第二十二番	高尻／石仏
第二十三番	役戸・追石谷／石仏
第二十四番	大町役戸／石仏
第二十五番	役戸／石仏
第二十六番	大町・川東北・三味堂墓地内／石仏
第二十七番	大町・川東南・三味堂墓地内／石仏
第二十八番	愛染寺／聖観世音菩薩
第二十九番	原宮の前・原八幡神社／石仏
第三十番	大町・川西・開法寺／石仏
第三十一番	田井・六万寺／石仏
第三十二番	田井・六万寺／石仏
第三十三番	西林寺／石仏
満願	西林寺／石仏

※第一番～第七番=牟礼町、第八番～第二十二番・番外=庵治町、第二十三番～第三十三番=牟礼町

## 庵礼西国三十三観音 札所一覧

四国八十八箇所の第八十五番札所・八栗寺を第一番として、打ち上げの第三十三番は牟礼の西林寺となっている。札所の内訳は、第一番～第七番が牟礼町、第八番～第二十二番が庵治町、第二十三番～第三十三番が牟礼町である。そして、新たに番外として庵治町の石像が加わった。

人々が救いを求めて観世音菩薩（観音）を祈願すると、その声をよく聞いて、三十三の姿に身を変えて現れ、苦しみから救ってくれる慈悲深い仏様として信仰され、今に続いている。

## 6 東天神社



天満神社（東天神社）

（所在地）馬治地区（字天神東）

（祭神）菅原道真

（建物）本殿・幣殿・拝殿など

（由来）桜八幡神社の境外末社で、東天神ともいわれる。『三代物語』には、仁和二年（八八六）、菅原家の船が庵治の浦に泊まり、西天神、東天神に憩う。よってそれぞれ祠を立つ、という記述がある。

## 7 庵礼二十四輩

浄土真宗の開祖・親鸞聖人には二十四人の高弟がおり、「二十四輩」と呼ばれる。二十四輩が開いた寺を巡拝し、阿弥陀仏に詣でることを二十四輩さん、又は二十四輩さん巡りという。この二十四輩さんに習い、身近な所でお参りをしたいという人々の願いから、庵礼二十四輩さんが作られた。庵礼二十四輩さんは、第一番く第十番が庵治町、第十一番く第二十番が牟礼町、第二十一番く第二十四番が庵治町となっている。

【第二十三番 庵治町 原ノ内】

庵礼二十四輩の第二十三番は庵治町原ノ内の旧道道端に所在し、石碑の表面に「常陸国 村田刑部妻」、裏面に「弥陀たのむ こころをおこせ 皆人の かわるすがたを みるにつけても」と刻字されている。

承久三年（一一二二）、村田刑部小輔平高時の妻が、難産のため、十九歳で死亡した。高時や親戚一同が、在所の無量寿寺境内に葬ったが、残された子どもが心残りであるかのように、幽霊となって現れるようになった。生前は美人であった刑部の妻は、恐ろしい鬼女と化し、無量寿寺の住職が懸命に供養したが一向に効き目がなく、ついに住職自らが寺を捨て、無住の寺は鬼女の住まいとなってしまう。高時や村人は成仏できずにいる妻を不憫に思い、供養の方法を考えていたところ、親鸞聖人が鹿島神宮に参詣のため近くを通られることを聞き、聖人を招いて、迷った鬼女の成仏の法を聞いた。聖人は村人たちに多くの小石を集めさせ、その石一つ一つに



親鸞聖人と村田刑部の妻  
の幽霊



庵礼二十四輩 第二十三番  
庵治町 原ノ内

浄土三部經二万六千六百十二字を書写し、幽霊が現れる墓へ埋めて念仏を称えた。すると恐ろしい鬼女の幽霊は菩薩の姿に変じ、無事往生を遂げ、二度と現れなかつたという。以上のような説話が、第三番無量寿寺にあり、幽霊濟度の御旧跡として有名である。庵礼二十四輩では、理由は分からないが、第二十三番に祭られている。

## 8 兵庫畑の薬師庵

大池の堤防から高尻線に出る道の西一帯は兵庫畑と言われているが、道の東側も兵庫畑に入れることもある。この地は広大な寺院が長宗我部氏の軍勢に焼かれ、その跡地が畑になったので兵庫畑という説と、兵庫氏の畑であったから兵庫畑と呼ばれる説



梵鐘（薬師庵）

がある。原ノ内の野に、毎夜、光を放つ霊石があり、弘法大師がその石で薬師如来像を作り、それを祀って蓮華寺を開いたといわれており、薬師庵は、その蓮華寺の跡地だといふ言い伝えがある。安永五年（一七七六）や八年などの庵守の墓や位牌があることから、そのころに開かれたといわれて

いる。明治になり、神仏分離で廃寺となった満願寺の梵鐘がここに移され、これが庵治町内最古のものである。明治七年（一八七四）には、ここに剣北小学校が開かれ百人余りの児童が通っていた。

## 9 大池神社と大黒さん

庵治で最も大きく、宮東から地頭名にかけてある池を大池といい、池の東側には、水を司り、洪水から守護してくれる水波能比売大神を祭神とする大池神社がある。この神の化身である白髪しろかみの老人が現れ、洪水を予言して村を救ったという伝説から、大池の白髪さんと呼ばれており、揚げ物を供えて祈ると皮膚病やはれものが良くなるといわれている。

また、昭和三十八年（一九六三）に、大池の堤防に大黒さんの大きな石像が寄進された。大黒さんは、頭巾をかぶり、大きな袋を背負い、打出の小槌をもつて米俵の上に座っている。特に四国、九州では、田の神・農業の神として信仰されている。



大黒さん

《参考文献》

● 『庵治町史』

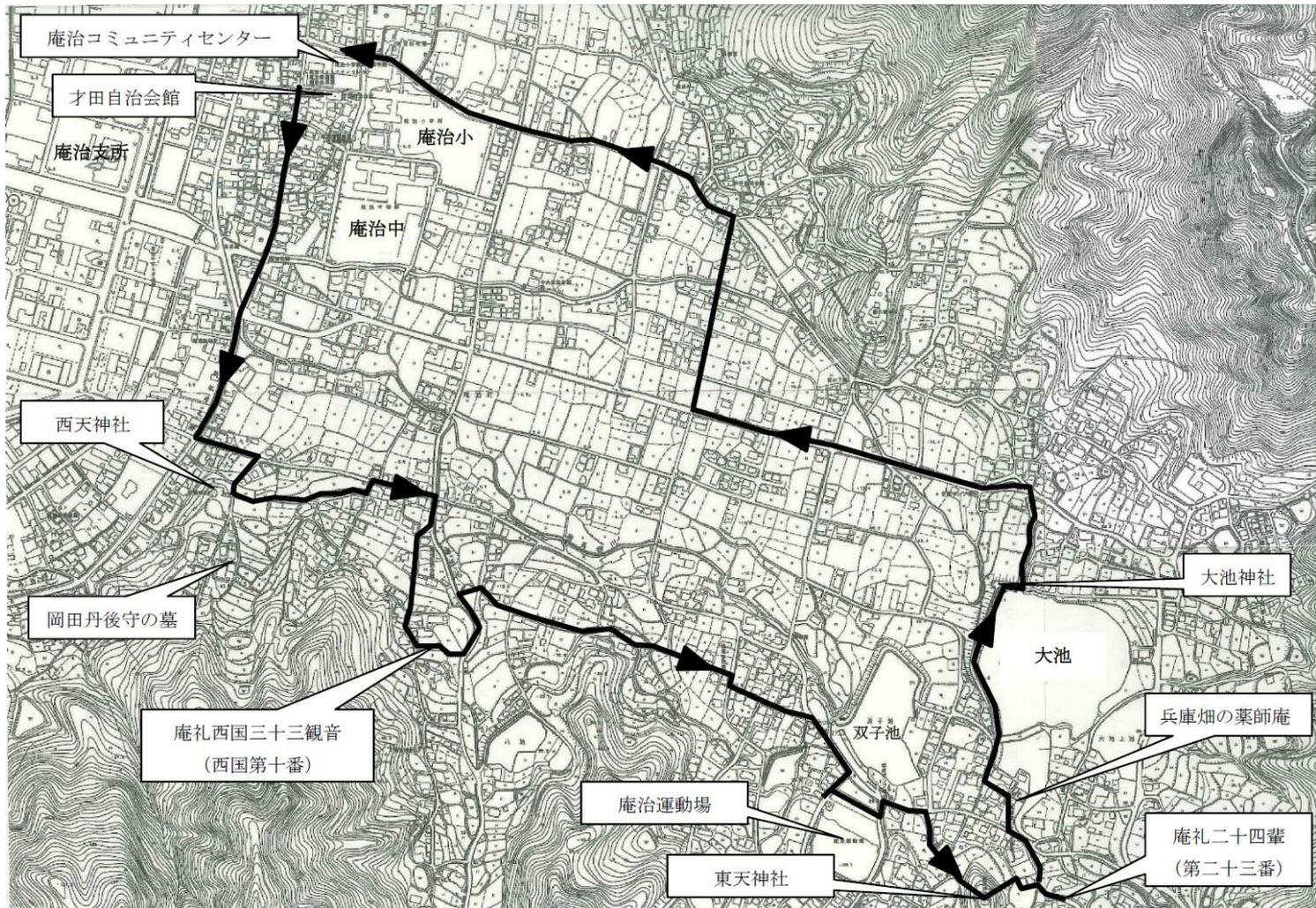
平成十九年三月 高松市

● 『史跡探訪』

平成十九年九月三十日、平成十九年十一月十一日 主催 庵治公民館

● 『高松市の文化財』

平成二十三年十二月 高松市教育委員会





## 「ふるさと探訪」に 参加される皆様へ



※参加中は、次のことに充分留意し、  
意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。  
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、  
道路の端を一行で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気を付けましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気をつけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。